

本日の議論の進め方

1. 前回の委員御指摘等を受けた対応

○第1回エネルギー構造転換分野ワーキンググループにおける委員の御指摘と、水素分野の有識者（横浜国立大学 光島教授）からの御意見を踏まえた、研究開発・社会実装計画（案）の修正内容を資源エネルギー庁より説明（NEDOから、広報の取組について補足説明）

○質疑応答・議論

2. プロジェクト内容についての追加的審議

○水素関連プロジェクトの①目標、②研究開発項目や社会実装に向けた支援、③スケジュールや予算について改めて資源エネルギー庁より説明

○上記3点について、各論点ごとに質疑応答・議論
（御議論いただきたい事項は別紙の通り）

(研究開発・社会実装計画について御議論いただきたい事項)

① 目標

- 企業等の経営者のコミットメントの対象となるアウトプット目標として、野心的かつ評価可能な指標（性能、コスト等）が設定されているか。
- プロジェクト内容と整合的かつ国民目線で分かりやすい表現により、CO₂削減効果や経済波及効果（関連ビジネス全体）等のアウトカム目標を設定しているか。

② 研究開発項目と社会実装に向けた支援

- 目標を達成するために必要な技術課題が分析されているか。研究開発の範囲や解決手法を限定せず、研究開発内容を適切に分割する等して、幅広い事業者の創意工夫を促すよう設計されているか。
- 規模、期間、実施主体、研究開発要素（委託・補助の考え方）等は、野心的な目標を定めた上で研究開発から社会実装までを継続して支援するという基金事業の趣旨に合致するか。（「グリーンイノベーション基金事業の基本方針」に定める要件を充足しているか。）
- 成果を最大化させるため、実施者間の連携又は競争を適切に促す設計となっているか。
- 標準化や大阪万博の活用等、社会実装に向けた支援方策を十分に検討出来ているか。

③ スケジュール・予算

- 事業化に向けた段階の切れ目等の適切なタイミングにおいて事業継続可否を判断するステージゲートを設けているか。費用対効果を最大化するため、技術方式の絞り込みや社会実装を担う事業者の追加公募等を行う予定としているか。
- 予算額の考え方は適切か。